

## イノシシ対策を効果的に進めるための5か条

- ① 柵を張る前から、**管理を考えた計画**を立てる
- ② **省力化**を図りながら適正な柵をつくる
- ③ **改善・補強**により効果を高める
- ④ 棲み分け対策や捕獲対策など、**バランスよく対策**する
- ⑤ **みんなで協力**して、長く続ける

### ○管理を考えて区画分けする



- 柵を途切れさせない
- 水路や道路などを横切らない
- 藪や竹林、山林などを囲わない

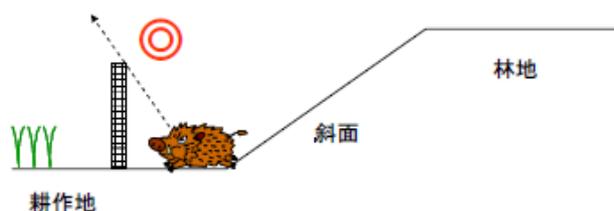
※対策は地域の人々で取り組む

### ○守りたい場所を明確にする



- なるべく農地の近くに張る
- 管理と作業のバランスを考える

### ○平坦な場所に柵をつくる



- イノシシの目線から柵が高く見える場所を選
- 設置作業や管理が楽な場所に張る

### ○柵の周りはきれいにしておく



- 柵の周りの草を刈る
- 柵の外側に石や木などを置かない (妨害にならず逆効果)
- 作物は柵から少し離して栽培する

※見回りは柵の外側を歩く

イノシシ被害を防ごう！！

# 防護柵の自己点検

(電気柵・ワイヤーメッシュ柵)



▲集落ぐるみでワイヤーメッシュ柵を設置  
(柵の設置前に草刈りなどの下準備を行っている)

長崎県では、イノシシ等による農作物被害の軽減を目的に、3つの対策を進めてきました。

- ①防護対策（侵入防止柵等の設置）
- ②棲み分け対策（誘引物の除去・緩衝帯の設置など）
- ③捕獲対策（加害個体、繁殖可能個体を対象とした効果的な捕獲）

特に、防護対策ではワイヤーメッシュ柵や電気柵などの効果的な侵入防止柵の設置により、イノシシ被害が減少した地域もありますが、柵の設置方法や設置後の維持管理に問題があり、十分な侵入防止効果が得られていない地域もあります。

新たに防護策を設置する地域では、柵の効果的な設置ルートや設置方法の参考にしていただき、また、防護策を設置したにも関わらず十分な被害軽減効果がみられていない地域では、自己点検による柵の改善と補強の参考にして、地域ぐるみの被害防止に取り組んでください。

長崎県農林部 農山村振興課

## イノシシ対策 自己チェックシート(電気柵)

①まずは電圧を測りましょう・・・目安は4,000V以上です！



□ 4,000V以上

②～④をチェック後⑤に進む



□ 4,000V未満

②に進む

### 電圧低下の主な原因

- 漏電 (草や金属支柱など)
- 舗装道や石垣などの電気を通しにくい場所への設置
- アース設置の不備
- 充電不足など、バッテリーの能力低下
- 電牧器本体の出力能力を超えた電線の総延長距離

①舗装道 (コンクリート・アスファルト) から30cm以上離れていますか？



□ 舗装道から30cm以上



□ 舗装道から30cm未満

### 電気を通しにくい場所

- 舗装道 (コンクリートやアスファルト)
- 石垣、石積み
- 乾燥した砂地の場所 など

#### 【改善方法】

- 30cm以上引き離す
- なるべく湿り気の多い地面に設置

③漏電していないか確認しましょう・・・草や金属の棒などが電線に触れていませんか？



□ 電線に草などが触れていない



□ 電線に草などが触れている

### 漏電の主な原因

- 草の接触
- 支柱やトタン板などの金属の接触
- たるんだ電線と地面の接触

#### 【注意点】

- 漏電箇所はパチパチと音がなり、青白い火花が飛び出すことがある
- 高電圧のため、空中放電することがある

④アースは地中30cmよりも深く、何本かある場合には間隔を2m以上開けていますか？



□ 地下30cm以下にアースが設置



□ アースを地表近くまとめて設置

### アース機能が十分でない場合

- 地面の浅い場所 (30cm未満) にアースを設置
- アース棒をまとめて打込み

#### 【改善方法】

- アースの感覚は2m以上離して、地下30cmより深くに埋め込む
- なるべく湿り気の多い地面に設置
- ビニール管の支柱など、金属管をアースの代わりに使うと効果的

この資料にある事例については、使用方法に問題があり、特定の機材の良し悪しを意味するものではありません

## イノシシ対策 自己チェックシート(電気柵・WM柵)

⑤柵と地面などのすき間をなくす・・・目安は20cm以下、WM柵は必ず地面に踏み込む



□電線の間隔が20cm以下



□電線の間隔が20cmを超える



□WMの下部を埋込み、アンカー等で補強 □WMと地面にすき間がある



まずはすき間対策から

イノシシの侵入方法は、地面のすき間からがほとんどです  
(飛び越えて入ることは少ない)

【電気柵の場合の改善・補強】

- 電線の間隔を20cm以下にする
- 支柱や電線を増設して地面の起伏に合わせる
- 水路やほ場の段差など、すき間を埋める(WM柵も併用)

【WM柵の場合の改善・補強】

- 地面に溝を掘る、WMを強く踏み込むなど、すき間をなくす
- 中間支柱やアンカーなどを打込んで、補強する
- 掘起こしのひどい場合には、周辺の草刈りやWMを地面に敷くなどの対策を行う

その他の電気柵の適正な使い方

- 支柱は内側(ほ場のある方向)に打込む
- ガイシは外向き(イノシシ等の来る方向)にむける  
⇒イノシシに支柱を押されて、策を壊されて、侵入させないため
- 通電時間は基本的に24時間電源を入れておく  
(通学路など人の往来に注意が必要)  
⇒イノシシは本来、昼行性の動物のため、明るい間にも被害が出る可能性がある
- 電気線の断線に注意する  
⇒プラスチック樹脂の電線が繋がっていても、中の金属線が切れていることがある
- 危険表示板を掲示する(法令で義務付けられています)



▲見回りと補修を同時実施

⑤防護柵設置後は見回りや補修、草刈りなどの柵の維持管理を徹底する



□柵周辺の草刈りをしている



□柵周辺の草刈りをしていない

柵の設置は対策のスタート！

柵設置後は環境の変化によりイノシシ被害が収まりますが、柵の管理をしなければ被害が再発することがあります。

【被害の再発を防ぐ方法】

- 見回り点検・補修作業をする  
(被害発生前に集中的に実施)
- みんなで続ける

この資料にある事例については、使用方法に問題があり、特定の機材の良し悪しを意味するものではありません